



乳幼児期に受ける予防接種の一覧



令和7年5月

種別	接種対象年齢		標準接種年齢	回数	方法・内容等
定期接種	小児用肺炎球菌*1	生後2~60か月に至るまで	接種開始年齢 生後2~7か月	4回	<標準接種年齢に接種を行った場合> 初回接種：27日以上の間隔をあけて3回接種 追加接種：初回終了後60日以上の間隔をあけ、かつ1歳以降に1回接種 *初回2回目及び3回目の接種は生後24か月に至るまでに行い、それを超えた場合は行わない。追加接種の実施は可能。 *初回2回目の接種が生後12か月を超えた場合、初回3回目の接種は行わない。追加接種の実施は可能。
	B型肝炎	生後1歳に至るまで*2	生後2~9か月	3回	27日以上の間隔をあけて2回接種。3回目の接種は、1回目の接種から139日以上の間隔をあけて1回接種。
	ロタウイルス (いすれかを選択)	出生6週0日後~24週0日後	1回目の接種は生後2か月~出生14週6日後まで	2回	27日以上の間隔をあけて2回接種
		出生6週0日後~32週0日後		3回	27日以上の間隔をあけて3回接種
	5種混合(DPT-IPV-Hib) (ジフテリア・百日咳 ・破傷風・ポリオ・ヒブ)	1期初回 生後2~90か月に至るまで	接種開始年齢 生後2~7か月	3回	20日以上の間隔をあけて3回接種 (生後7か月を過ぎて接種を開始しても、初回接種3回を接種する。)
			初回接種終了後 6~18か月	1回	1期初回(3回)終了後、6か月以上の間隔をあけて1回接種
	4種混合(DPT-IPV)*3 (ジフテリア・百日咳 ・破傷風・ポリオ)	1期初回 生後2~90か月に至るまで	生後2~12か月	3回	20日以上の間隔をあけて3回接種
			初回接種終了後 12~18か月	1回	1期初回(3回)終了後、12か月以上の間隔をあけて1回接種
	ヒブ*1	生後2~60か月に至るまで	接種開始年齢 生後2~7か月	4回	<標準接種年齢に接種を行った場合> 初回接種：27(20)日以上の間隔をあけて3回接種 追加接種：初回(3回)接種終了後7か月以上の間隔をあけて1回接種 *初回2回目及び3回目の接種は、生後12か月に至るまでに行い、それを超えた場合は行わない。この場合、追加接種は可能だが、初回接種終了後、27(20)日以上の間隔をあけて1回行う。
	BCG(結核)	生後1歳に至るまで	生後5~8か月	1回	委託医療機関で1回接種 *保健福祉センターでの集団接種は令和5年3月で終了
	MR (麻疹ん・風しん)	1期	生後12~24か月に至るまで	1回	1歳を過ぎたら早めに接種
		2期	小学校就学前1年間	1回	幼稚園等の年長の時期がきたら早めに接種
	水痘	1回目 生後12~36か月に至るまで	生後12~15か月	2回	3か月以上の間隔をあけて2回接種
			1回目終了後6~12か月		
	日本脳炎	1期初回 生後6~90か月に至るまで	3~4歳	2回	6日以上の間隔をあけて2回接種
			4~5歳	1回	1期初回(2回)終了後、6か月以上の間隔をあけて1回接種
任意接種	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1歳以上	1歳以上早期	1~2回	2回接種により免疫が強化される。2回目を接種する場合はMR2期と同時期を推奨
	インフルエンザ	生後6か月~		2回	2~4週の間隔をあけて2回接種。(毎年の接種が推奨される)

*1 接種開始年齢が生後2か月~7か月に至るまでの場合は4回接種となります。(生後7か月以上から接種開始した場合は接種回数は1~3回と異なります。)

*2 母子感染予防の対象者*は定期接種対象外です。(*HBs抗原陽性の方の胎内又は産道においてB型肝炎ウイルスに感染するおそれのある方であり、抗HBs人免疫グロブリンの投与に併せて組み換え沈降B型肝炎ワクチンの投与を受けたことのある方)

*3 4種混合ワクチンは令和7年7月頃、在庫がなくなり次第、販売終了となります。

すでに4種混合ワクチンとヒブワクチンの接種を始めている方で、同一ワクチンでの定期接種が完了できない場合は、大阪市ホームページで詳細をご確認ください。

*4 日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュールを参照し、主なものを掲載しています。

大阪市保健所・各区保健福祉センター